

グループの玄関口に高精細な46面の65V型大画面を設置。 デジタルサイネージにより交通広告の一層の価値を高める。

お客様のニーズ・課題

小田急グループの玄関口である新宿駅西口地下コンコースにおいて、デジタルサイネージを採用した広告配信を展開し、交通広告としての価値向上を実現したい。



導入効果

駅コンコース内1ヶ所としては国内最大規模となる、全46面の65V型フルハイビジョン液晶ディスプレイによる「小田急デジタルピラー」を実現。多彩な広告展開を可能にした。



小田急電鉄株式会社様

「小田急」の略称で親しまれている小田急電鉄様は、1923年に創立された小田原急行鉄道を前身とし、1948年に発足しました。現在では日本最大のターミナル駅である新宿を起点として、小田原や江の島、多摩ニュータウンまでを結ぶ鉄道ネットワークを形成するとともに、不動産賃貸業をはじめ、遊休地や再開発事業用地での商業・サービス施設を開発。多様化するニーズをとらえた新規事業を積極的に展開し、沿線の利便性向上に努めています。「お客さまの『かけがえない時間(とき)』と『ゆたかな暮らし』の実現に貢献する」ことをグループ経営理念として掲げ、社会とともに持続的に発展していくことを目指しています。



小田急電鉄株式会社

沿線事業部 平林剛樹様と、長谷川竜司様にお話を伺いました。

導入背景

広告ニーズが非常に高い新宿駅で交通広告の価値を向上したい。

ここ数年、広告事業は非常に厳しい状況にさらされていますが、交通広告媒体は「駅」という集客力の強さからその価値が相対的に見直されています。特に当社の玄関口ともいえる新宿駅は、日本有数のターミナル駅で乗降客が非常に多く広告出稿のニーズが非常に高いエリアです。この場所で交通広告の価値を高めるにはどのような手法・展開があるかというのが、今回のプロジェクトの原点でした。

新宿駅へのデジタルサイネージの導入は、2009年春頃から本格的に検討し始めました。当社の地下西口改札前にはたくさんの柱が通行の動線に沿った形で配置されており、デジタルサイネージを配置するには適した構造です。しかし計画当初は、駅のような閉鎖されていない空間での成功事例がなく、当社独自の実証実験でも期待したほどの成果が得られなかったこともあり、スムーズな着手とはなりません。最終的には「新宿駅で成功しなければ他にデジタルサイネージが成功する環境はない」との結論に至り、導入が決定しました。



小田急線西口地下改札口前。動線に沿った形で柱が配置され、デジタルサイネージの導入に適したエリア。

選定理由

65V型フルHD大画面と、高輝度、防塵防滴仕様が決め手に。

新宿駅の西口地下コンコースにデジタルサイネージを設置するには、設置面が動線に対して正対し、かつ多面展開するのが必須であると判断しました。そこで、駅コンコース内1ヶ所としては国内最大規模となる46面を一気に導入することとなりました。

ソニー製品を採用したのは、柱の中でのなるべく大きな映像表示面積を確保するため、65インチディスプレイを採用したかったという理由があげられます。ソニーの65V型フルHD液晶ディスプレイGXD-L65H1は、交換可能な液晶保護パネルを装備し、画面への映り込みや外光の反射を抑えて700cd/m²の高輝度でクリアな映像を表示再現します。また、駅という過酷な環境の中で使用するにあたり、GXD-L65H1は防塵・防滴対応となっており、電気系統の厳しい諸条件にも対応するなど安全性、安定性の高さも選定の大きな要因となりました。



高輝度、防塵防滴仕様の65V型フルHD液晶ディスプレイGXD-L65H1。液晶保護パネルを標準装備し、映りこみのない明るくクリアな映像表示が可能。

導入効果

動画や音声、FeliCaとの連携により多彩な広告展開を実現。

新宿駅西口地下コンコースの全46面のデジタルサイネージは、「小田急デジタルピラー」として2010年10月1日15時より運用を開始しました。表現力を高め、広告としてのインパクトを与えるために46台のGXD-L65H1すべてにスピーカーを併設し、動画と静止画、音声を用いた広告配信を行っています。また、46面のディスプレイすべてに異なる映像を表示することもでき、さまざまなクリエイティブに対応できるようにしました。サイネージシステムとして採用した“BEADS”は、予めコンテンツ毎に枠を作り編成しておき、編成後にコンテンツの入稿もできるといった、広告配信のワークフローが考慮されているところも、広告事業者にはありがたい点です。

さらに、FeliCaリーダーも全台に取り付け、広告をご覧になったお客様がFeliCa対応の携帯電話を使って読み取ることで、クライアントの携帯サイトへアクセスできる機能も備えました。

ソニー製品を選択してよかったと感じているのは、製品そのもののよさもさることながら、システム設計から販売、保守まで一社でトータルサポートしてもらえることです。「小田急デジタルピラー」の構築においても、フレキシブルに対応してくれました。画面が非常に大きく見えるのは、視覚的にパネルと一体に見えるように、ソニーさんにベゼルを黒に変更していただき、フレーム強度、機器配置・放熱対策についても建築会社も交えて検討した結果、ぎりぎりまで放熱空間などを狭めてパネルを囲むフレーム枠を細くすることができたことによるものです。「小田急デジタルピラー」の設置に伴って駅も一部リニューアルしていますが、全体との調和を重視してトータルデザインするにあたり、ソニーさんにはFeliCaリーダー外部アンテナの導入から、設置金具のスリム化についてまで相談にのってもらい一緒に知恵を絞っていただきました。

さらに、「小田急デジタルピラー」の稼働時間は始発から終電(5:00~25:00)までとなるため、編成時などに混乱しないよう、電源タイマー機能の日まぎ設定ができるようカスタマイズもしていただきました。



46面全てにFeliCaリーダーを設置。FeliCa対応の携帯電話を使うことでクライアントの携帯サイトへのアクセスが可能。

今後の展望

交通広告として認知度・価値をより高めるべく展開を図る。

「小田急デジタルピラー」の運用開始から約3カ月が経ちました。当社は一般的なロール売り販売ではなく、1週間1クライアントへの販売を基本としています。年度内はほぼ満稼働といった状況です。この成果は、「小田急デジタルピラー」の交通広告媒体としての価値を認めてもらった結果だと思っています。様々なメディアからも注目いただきました。

しかし、計画段階とは異なり、現在、デジタルサイネージは急速に普及が進み、物珍しいメディアから一般的に認知されたメディアに変わりつつあります。今後は、稼働率の推移を見極めながら、より交通広告の価値を高めるためにどう展開していくべきか検討していかなければならないと考えています。ソニーさんとより一層のコミュニケーションを図りながら、新宿駅の「小田急デジタルピラー」が、成功事例となるよう取り組んでいきたいと思っています。



トータルデザインにより、駅全体との調和を重視した「小田急デジタルピラー」。

パブリックディスプレイ／デジタルサイネージの商品情報やお客さま事例をご覧ください。
sony.jp/public-display/

ソニービジネスソリューション株式会社 / 〒108-0074 東京都港区高輪4-10-18

記載の商品に関するお問い合わせは

ソニー業務用商品相談窓口

フリーダイヤル ☎ 0120-788-333

●携帯電話・PHS・一部のIP電話からは 0466-31-2588

●FAX 0120-333-389

●受付時間 9:00~18:00 (土・日・祝日、および年末年始は除く)

2011年1月現在